



那須町と 近現代の人々

vol.06



神田正雄
(1879-1961)

6月号は芦野出身のジャーナリスト・政治家である神田正雄について紹介します。

正雄は、明治12年神田貞の次男として誕生しました。神田家は交代寄合旗本芦野氏の家老を勤めた家で、父貞は明治維新後、芦野亮道館で教壇に立ち、芦野宿・大田原宿の戸長も務めました。また兄孝一は、工場管理学者として慶応大学講師などを歴任しています。

正雄は、芦野尋常小学校、宮城農学校、東京専門学校（現・早稲田大学）を卒業すると、明治35年、清国四川省重慶府に招かれ教育顧問兼教習に就き、同38年にはロンドンピア大学・オックスフォード大学に留学しました。

明治41年に帰国すると、東京朝日新聞社に入社し、東京・大阪両朝日新聞社の特派

員として、10年間北京で勤務しました。大正6年、帰国し本社勤務となると政治部長・外報部長などを歴任し、大正12年には緒方竹虎（後の吉田内閣官房長官）・美土路昌一（後の全日空初代社長）らと編集委員として実質的に局長を務めました。

正雄は、大正13年、第15回衆議院議員総選挙に栃木3区（芳賀郡）から立候補し初当選しました。以後憲政会・立憲民政党の議員として昭和5年まで務め、農政問題や中国問題に尽力しました。また立候補の際のエピソードとして次の逸話が遺されています。大正13年の選挙戦の際、当時朝日新聞の同僚であった民俗学者柳田國男が正雄の応援演説を行いました。柳田は『故郷七十年拾遺』の中で正雄の応援演説は「大変反響が良かった」と記しています。柳田の生涯で応援演説をしたのは、神田正雄と内ヶ崎作三郎のみであることから貴重な出来事といえるでしょう。

昭和に入ると正雄は著述業

に力を注ぎます。昭和2年、南洋・南米事情の普及を目的に海外社を創立し、月刊誌「海外」を発刊しました。また戦中・戦後にかけてはアジアや中国に関する著述や講演を行い、国内きつての論客として晩年まで活躍しました。



記念写真(大正15年・下段一番右が神田正雄)

問合せ

那須歴史探訪館
☎747007



「フレー！フレー！あ・か・ぐ・み！」近くの小学校から元気な声が聞こえてきます。もうすぐ運動会。練習にも力が入っているようです。▼私に通っていた小学校は全校生徒が100人に満たない学校でした。運動会には家族はもちろん、地域の人たちも観戦に訪れ賑やかに開催されていました。屋台が1件だけ出ていて、お昼休

こんにちは 赤ちゃん



令和3年12月生まれ

松倉光穂ちゃん



光穂ちゃんは…
すくすく育ってくれる親孝行な娘です！

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

みにクリームソーダを買ってもらえることが、最高のご褒美だったことを思い出します▼演目の一つに鼓笛隊がありました。私は、小太鼓のタカタカタン！と小気味良くバチで演奏する姿がかっこいいと憧れていました。残念ながら、演奏することは叶いませんでした。大勢の人たちと作り上げた運動会は楽しい思い出として、今も心に残っています▼新型コロナウイルス感染症がまん延して以降、中止が相次いだ行事やイベントで

したが、開催方法を工夫し、再開するものも増えてきました。マスク着用に関しては、「引き続き基本的な感染防止策として重要」としながらも、「屋内であっても十分な換気など感染防止対策を講じている場合は着用の必要なし」とするなど対策の方法が少しずつ変わってきています。場面に応じた対策が広がり、行事などが再開されることで、子どもたちがたくさん経験と思い出を作る機会が増えることを願っています。

町の世帯と人口

(5月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

●世帯数	10,560世帯 (+39)	出生	10人 (+ 5)
●人口	24,428人 (+10)	死亡	32人 (-13)
	男 12,161人 (-3)	転入	133人 (+ 5)
	女 12,267人 (+13)	転出	105人 (-50)
		その他	4人